

記事掲載：2022年2月

翻訳：2022年3月

「すべて」が本当にすべての人を意味するとき：世界的な教育危機への対応において、障害のある子どもたちの教育を受ける権利を実現するために



| Photo © UNHCR/Ivor Prickett

ヌジーン・ムスタファさん、シリアからドイツへの道のりで

記事の執筆：ヤスミン・シェリフ氏、ECW 事務局長

ヌジーン・ムスタファさんは16歳のとき、スチール製の車いすでシリアからドイツまで3,500マイル（約161キロ）の旅をしました。ヌジーンさんは、戦争が始まる前から、シリアの他の少女と同じように学校に通っていませんでした。彼女は、障害があるという理由だけで、教育を受ける権利を否定された何百万人もの子どもたちの1人だったのです。

ヌジーンさんの素晴らしい旅は、希望に満ちた感動的な物語です。しかし、武力紛争や危機の中にある障害のある子どもたちの大半は、残念ながらヌジーンさんのような結末を迎えてはいません。

私たちはもう、最も取り残された子どもたちを、紛争などの影響下に残してはおけません。

2月14日から17日かけて、国際障害連盟（IDA）、ノルウェー政府、ガーナ政府の主催で、[グローバル障害サミット](#)が開催されました。2回目となるこのサミットは、4年前にイギリスが主催した第1回サミットで達成された成果をもとに開催されました。

今こそ、第1回目サミット以降の取り組みを振り返り、約束した取り組みの説明責任を果たす時です。そして、世界中の障害と共に生きる人々の権利の実現に向け、待ち望まれている取り組みをさらに加速させる時です。

障害のある子どもを含むすべての子どもたちが教育を受け、学び、自分自身や家族、地域、社会のためにより良い未来を築くことができるよう、私たちは協力し、教育を第一に考えなければなりません。

ヌジーンさんのように、教育を受ける権利を否定されている少女少年がどれだけいるか、考えてみてください。世界の子どもの約10%は障害を持つ子どもたちです。[ユニセフ](#)によると、「障害のある子どもたちは、基礎的な読字能力と計算力を身につけるチャンスが42%少なく、学校に通えない確率も49%高くなる」と言われています。

アフガニスタン、バングラデシュ、チャド、シリアなど、緊急事態や長期化する危機に巻き込まれた障害のある子どもたちにとって、状況はさらに[悲惨](#)なものになっています。

障害のために歩くことが難しい子どもが難民キャンプに住んでいて、学校まででこぼこの未舗装の道しかなく、教室に入るには階段を上らなければならないところを想像してみてください。

より平和で豊かな世界を築き、「持続可能な開発目標」に示される普遍的で公平な教育を確保するための世界的な取り組みにおいて、私たちは障害のある子どもたちに対する道義的な義務を負っています。

平等は教育から始まります。緊急事態や長引く危機下の教育のための国連の世界基金である「教育を後回しにはできない基金（[ECW](#)）」は、他のアクターと協調し、多くの障害のある子どもたちを周縁に追いやってきた制度上の不足・不備に対応する取り組みを行っています。

事業を実施する現地では、政府、市民社会組織、国連機関、ドナー、その他のパートナーシップと協力し、教育をインクルーシブなものにするための取り組みを行っています。そうして初めて、障害のある子どもたちも他の子どもたちと平等に、有意義な学習の機会を得ることができるのです。

ECWは、数年間にわたる「複数年レジリエンス・プログラム」を策定する際には、現地パートナーと協力します。イラクにおいても、イラク障害団体連合と協力して、障壁とリスクを分析しました。そして、緊急事態や

長期化する危機の中で、障害のある子どもを含むすべての子どもたちのためにインクルーシブで質の高い教育を強化することを最終的な目的とした活動を行いました。

イラクでの事業のように、障害のある子どもとその親、障害のある人々のために活動する市民社会が、ECW の中心的な資金援助の対象となることが増えてきています。ECW からの資金援助によって、彼らが直面する障壁やリスクが何かを特定し、それらを取り除く事業に投資することができます。そして最終的には、障害のある子どもたちの優先課題に取り組み、彼らの望みを実現することが、ECW による支援の目的です。

ECW の資金による支援活動は、現地の状況に応じて様々な形で行われ、一人ずつ、子どもたちの人生を変えていきます。

ヤスミーナは、バングラデシュのクトゥパロン難民キャンプに住むロヒンギャ難民です。彼女には学習障害、身体障害、重度の言語障害があります。もし、障害のある子どもを対象とした支援がなければ、ヤスミーナは、人権を否定された何百万人もの障害のある子どもたちの 1 人として、統計値に含まれていたことでしょう。

ECW からの資金援助により、ヤスミーナは現在、学習センター内の学校に通っています。彼女の教師は専門的なトレーニングを受けています。また、「バック・トゥー・ラーニング」キャンペーン^{※1}により、彼女のような少女たちが新しい教育の機会に参加できるようになりました。

このような活動が、世界中で行われています。エチオピアでは、身体的・精神的に困難な状況にある子どもの**アリ**さんが学校に通えるようになりました。エクアドルでは、ECW の支援により、知的障害のある**ジャイル**さんが学校に通い続け、いつか機械工になるという夢を支えています。シリアでは、身体に障害、短い人生の中で 5 回も家を追われた**カワタル**さんが、子どもたちの教育の遅れを取り戻すためのプログラムを通じて学習を再開しました。さらに、安全に登下校できるように交通手段も提供されています。

今こそ、こうした活動を大きく広げていき、**国連障害者の権利に関する条約**を実現する時なのです。

ECW はパートナーとともに、すべての助成金事業において、支援対象となる子どもたちの 10%は、障害のある子どもたちとすることを約束しています。そのためには、さらなる資金が緊急に必要です。

私たちは、ヌジェーン、ヤスミーナ、アリ、ジャイル、カワタルのようなすべての少女少年が、教育を受け、自立して生活し、人生のあらゆる場面に十分に参加する機会を得られるよう、共に努力しなければなりません。

※1「バック・トゥー・ラーニング」キャンペーン

障害や、紛争における暴力によって教育を中断せざるを得なかった子どもたちが学習を再開することを目的としたキャンペーンです。

保護者や教員に働きかけて子どもたちが学校に通えるようにしたり、子どもたちが教育を再開する自信がもてるように心理社会的支援を実施し、学習をサポートしたりします。

キャンペーンに関する記事は[こちら](#)

【翻訳前の記事（英語）】

[WHEN ALL TRULY MEANS EVERYONE: FULFILLING THE RIGHT TO EDUCATION OF CHILDREN WITH DISABILITIES IN OUR GLOBAL EDUCATION CRISIS RESPONSE](#)

